



パレモ信条

- 一. 私達はお客様の声を大切にします
- 一. 私達は明るく楽しく前向きに主体性ある職場をつくれます
- 一. 私達は魅力あふれるブランドを提案します
- 一. 私達は自らの努力で高い目標に果敢に挑戦します
- 一. 私達は仲間と感動を通して輝かしい明日を創造します

変わらぬパレモ。
変わり続けることが

PALEMO CO.,LTD.

第23期中間報告書

[2007.2.21.~2007.8.20.]

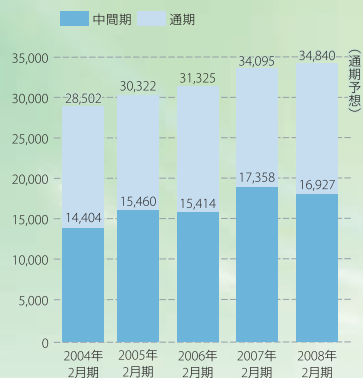


PALEMO

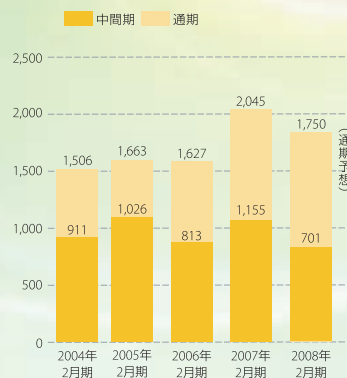
PAL [仲間] + EMOTION [感動]

PALEMO という社名は、「PAL(仲間)」と「EMOTION(感動)」の二つの言葉を合わせた造語であり、「感性豊かな仲間たちと共に人生、仕事の感動を味わう」という思いが込められています。

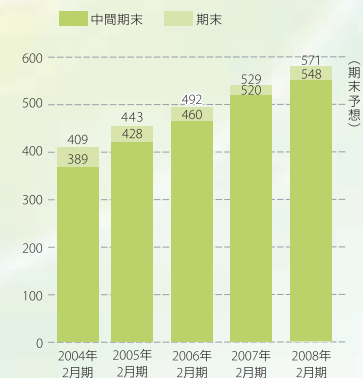
売上高(百万円)



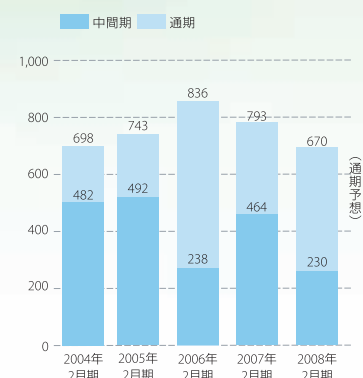
経常利益(百万円)



中間期末(期末)店舗数(店)



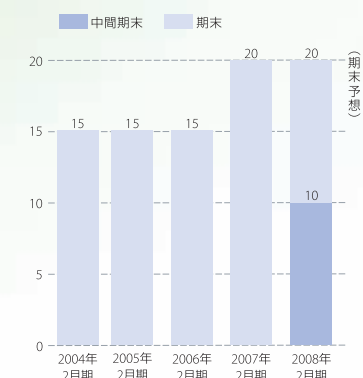
中間(当期)純利益(百万円)



1株当り中間(当期)純利益(円)



1株当り中間(期末)配当金(円)



※2004年2月期期末配当金の内訳
普通配当13円・記念配当2円

※2008年2月期(通期及び期末)の各数値は予想数値となります。

株主の皆様へ

変わり続けることこそ 変わらぬ PAF

【指針】

正しい経営

安定成長

ローコスト経営

人「財」経営



代表取締役社長

中本 敏幸

株主の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。当社第23期中間報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

この上期におきましては、ゆるやかな景気回復を背景に消費の好転が見込まれたものの、定率減税の廃止や社会保障の負担増により個人消費の力強さにかかる環境が続きました。また、小売業界におきましてはオーバーストアー化が一層進み、ならびに天候不順等の影響から客数の伸び悩みが見られました。

こうした環境が続いた中、店舗開発を積極的に行い、商品力の強化ならびにローコスト経営を徹底してまいりました。しかしながら、当中間期における決算が「**減収減益**」という厳しい結果になりましたことを謹んでご報告申し上げますとともに、心よりお詫び申し上げます。

下期におきましては株主様からの信頼を得られるよう、役員はじめ社員一丸となり、業績達成のために努力してまいります。厳しい経営環境は続いておりますが、当社の「**収益基盤を強化**」し、「**明日への投資**」も継続しながら、「**永続的な安定成長**」を目指し経営に邁進する所存でございます。

今後も株主の皆様のご期待にお応えできるよう、企業価値ならびに株主価値の向上に専心努力してまいります。同時に、適切な情報開示ならびに積極的なIR活動にも努めてまいります。

引き続き皆様方からご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

トップインタビュー

既設店の強化を柱に永続的な安定成長を目指します。

上期の業績についての概要とその要因についてお話しください。

まず業績についてですが、この上期は減収減益という大変厳しい結果であったことの責任を痛感しております。売上高は 16,927 百万円、前年同期比 97.5%、経常利益は 701 百万円、前年同期比 60.7%、中間純利益は 230 百万円、前年同期比 49.6%です。一番の大きな要因は「**既設店の減収**」です。その売上高前年同期比は 88.8%です。

外的な要因として、オーバーストアー化及び天候不順等がありますが、この上期の特殊要因として市場トレンドに大きな流れがなく、そのトレンドの変化も僅少であったことも一つの要因でありました。しかしながらこれらのすべての外的な要因は小売業として、今後も当り前にあるものと認識しております。

期間中に出店 33 店舗、退店 14 店舗と積極的なスクラップ&ビルドを実施し、同時に既設店の改装を 37 店舗行いました。商品力及び営業力も強化いたしまして**売上総利益率が 1.4%改善**いたしました。また、2005 年の 8 月に営業譲受した後、順調に成長した**インセンス事業は黒字化**を今上期に果たすことができました。

しかしながら、主力事業の既設店の減収が響きまして、大変厳しい結果に終わりました。

下期に向けての考えと今期の見通しについてお話しください。

下期は上期の反省をふまえて、「**既設店の強化**」を柱に全社一丸となって上期の業績をカバーすべく努力していく考えです。

結果の原因は明確ですので、早速、上期終了前に商品と営業の体制を変更しその強化をしております。商品の企画及び管理体制を再編し**プライベートブランド (PB) 商品の強化**を図ると同時に、営業体制の見直しもしております。

店舗開発におきましては積極的なスクラップ&ビルドを継続し、通期で出店 66 店舗、退店 24 店舗を計画し、既設店の改装も積極的に取り組んでまいります。また、株式会社バンダイとのコラボレーションによる「**Sweet Razzor**」ブランドをギャルフィット・ファナー事業の全店舗で展開し商品力の強化も図ってまいります。

これらの施策によりまして、下期は売上高ならびに経常利益とも、確実に達成を致してまいります。通期におきましては、売上高は 34,840 百万円、経常利益は 1,750 百万円、当期純利益は 670 百万円を見込んでおります。



今後の業界動向についてどのような認識をお持ちでしょうか。

今後は更に厳しい競争環境が進行するものと思っております。

外資専門店の日本上陸やアパレル企業の小売業参入も拡大してまいります。商業施設におきましては、改正まちづくり三法施行後も「**オーバーストアー**」環境が続くものと考えます。引き続きモール型ショッピングセンター (SC) の開発は旺盛であり、加えて1万平方メートル以下の小型SC業態やスーパーセンターといった商業施設も拡大していくものと思っております。2008年、2009年においては、各々70以上のSCの出店申請がなされております。こういった環境の中で、お客様の商品及びお店を見る目は益々厳しくなっております。したがって、「**ブランド化**」の更なる進行為予測されます。

また、主たる産地である中国を中心とした原材料の上昇及び為替変動に伴う仕入コストの上昇や人件費及び家賃等の営業経費の上昇もあり、**専門店は高荒利率**でないと生き残れなくなるだろうと考えております。

業界におきましては、今後各企業の盛衰が益々顕在化してくるものと思ひますし、新しい環境下での「**新時代の競争**」が既に始まっているという認識を持っております。

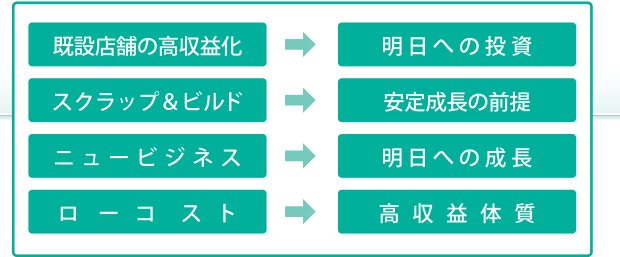
今後の業界動向をふまえてどのような方策をお考えでしょうか。

まずは、既設店の高収益化です。これが明日への投資ができる前提となります。**プライベートブランド (PB) 商品を高度化**し商品効率を更に高めていきます。

次に、**スクラップ&ビルドの継続**です。これが商業施設が激変していく環境の中で安定的に成長していくための大前提であると思っております。

更に、商品力強化等のためのシステム投資も継続的に行っていき、海外からの直接物流の強化も図ってまいります。また、人財への投資も継続し、経営・管理職層はもちろんのこと店長・メンバーへの教育・研修も実施してまいります。これらの**システム及び人財への投資**は明日の成長へとつながってまいります。

最後に、ニュービジネスの取り組みです。当社はショッピングブランドビジネスを主力としております。明日の成長を考え「**ブランドビジネス**」への取り組みを続け、確実に主力事業に育ててまいります。木糸土の一号店が順調であり、多数のデベロッパーからの出店の依頼がきております。また、**ネットビジネスはブランド数の拡大**とともに順調に成長しており、下期には自社サイト開設も予定致しております。



決算ハイライト

2007年8月中間決算のポイント

減収減益

売上高前年同期比97.5%、経常利益は前年同期比60.7%、中間純利益は前年同期比49.6%と中間期としては2期ぶりの減収減益となりました。

売上総利益率

売上総利益率は50.5%となり、前年同期と比較して1.4%改善することができました。売上総利益率の改善は予定を上回る推移であります。

既設店売上高

既設店売上高前年同期比は88.8%、客単価は前年同期比98.0%で微減でしたが、客数が前年同期比90.6%で大幅減したことが売上に影響しています。

スクラップ&ビルド

今上期は、33店舗の出店を行い、14店舗の退店を行いました。これにより前年度末から19店舗増加し、中間期末店舗数は548店舗となりました。

今期の年間見通し

下期は**既設店売上高前年同期比を99.5%**で計画しております。**売上総利益率は前年同期比0.5%増**の51.1%を計画しております。

期中の出店は33店舗、退店は10店舗を計画しております。

2008年2月期の年間見通しは、売上高34,840百万円、経常利益1,750百万円、当期純利益670百万円、を計画しております。

(単位：百万円/%)									
	上期実績			下期計画			年間見通し		
	金額	売上高比率	前年同期比	金額	売上高比率	前年同期比	金額	売上高比率	前年同期比
売上高 (既設前年比)	16,927	-	100.0 (88.8)	17,913	-	100.0 (99.5)	34,840	-	102.2 (94.0)
営業利益	685	4.0	60.5	1,045	5.8	119.2	1,730	5.0	86.1
経常利益	701	4.1	60.7	1,049	5.9	117.8	1,750	5.0	85.5
当期(中間)純利益	230	1.4	49.6	440	2.5	133.8	670	1.9	84.4

中間損益計算書

当中間期における売上高は16,927百万円で、前年同期比97.5%となりました。

新規に33店舗出店し、14店舗退店いたしました。**店舗の純増は19店舗**でありましたが、既設店売上高前年同期比が88.8%という厳しい結果に終わり全社で減収となりました。

経常利益においては、701百万円で、前年同期比60.7%となりました。**売上総利益率は1.4%改善**しましたが、減収の影響で販売費及び一般管理費の売上高比率が上昇し大幅な減益となりました。

中間純利益においては、前年度のポイント引当金繰入の影響により、**特別損失が94百万円減少**しましたが、経常利益の減益が響き前年同期比49.6%、230百万円となりました。

部門別中間実績

主力の3事業である、ギャルフイット・ファナー、ライムストーン及びシーベレット事業は、既設店の減収により計画より大幅な未達で終わりました。**インセンス事業は、計画以上に**推移いたしました。

荒利率におきましては、シーベレット及びインセンス事業が商品力強化により各々大幅な改善ができました。

(単位：百万円)						
科 目	前中間会計期間 2006年2月21日から 2006年8月20日まで		当中間会計期間 2007年2月21日から 2007年8月20日まで		前事業年度 2006年2月21日から 2007年2月20日まで	
	金額	百分率	金額	百分率	金額	百分率
売上高	17,358	100.0%	16,927	100.0%	34,095	100.0%
売上原価	8,834	50.9	8,385	49.5	17,098	50.1
売上総利益	8,524	49.1	8,541	50.5	16,997	49.9
販売費及び一般管理費	7,390	42.6	7,856	46.4	14,987	44.0
営業利益	1,133	6.5	685	4.1	2,010	5.9
営業外収益	36	0.2	30	0.1	67	0.2
営業外費用	14	0.0	14	0.1	32	0.1
経常利益	1,155	6.7	701	4.1	2,045	6.0
特別利益	24	0.1	17	0.1	44	0.1
特別損失	272	1.6	178	1.0	475	1.4
税引前中間（当期）純利益	907	5.2	540	3.2	1,615	4.7
法人税、住民税及び事業税	527	3.0	242	1.4	857	2.5
法人税等調整額	△84	△0.5	67	0.4	△35	△0.1
中間（当期）純利益	464	2.7	230	1.4	793	2.3

(単位：百万円/%)						
	売上高	前年同期比	構成比	既設店前年同期比	荒利率	前年同期比増減
ギャルフイット・ファナー	11,174	93.5	66.1	88.4	50.3	1.4
ライムストーン	1,340	92.9	7.9	89.6	52.0	0.7
シーベレット	3,507	109.3	20.7	87.6	48.9	1.7
インセンス	733	127.0	4.3	102.5	46.7	2.9
その他	171	94.2	1.0	-	-	-
全社	16,927	97.5	100.0	88.8	50.5	1.4

決算ハイライト

中間貸借対照表

＜資産の部＞ 流動資産が季節要因による売上預け金の増加等により、前期末と比較して514百万円増加しました。**固定資産は店舗数の増加に伴い、前期末と比較して207百万円増加**しました。

(単位：百万円)						
科 目	前中間会計期間末 2006年8月20日現在		当中間会計期間末 2007年8月20日現在		前事業年度末 2007年2月20日現在	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
資 産 の 部		%		%		%
流動資産	6,552	41.4	5,724	37.7	5,209	36.1
現金及び預金	622		395		284	
受 取 手 形	0		0		2	
売 掛 金	87		85		85	
売 上 預 け 金	2,262		1,644		1,112	
棚 卸 資 産	2,938		3,081		3,172	
繰延税金資産	212		163		200	
そ の 他	429		353		351	
固定資産	9,289	58.6	9,442	62.3	9,235	63.9
有形固定資産	2,483	15.7	2,533	16.7	2,388	16.5
建 物	2,069		2,161		2,020	
器具及び備品	414		372		368	
無形固定資産	56	0.3	66	0.4	69	0.5
投資その他の資産	6,749	42.6	6,842	45.1	6,777	46.9
投資有価証券	214		200		213	
繰延税金資産	170		104		134	
長期差入保証金	6,252		6,363		6,283	
そ の 他	145		202		176	
貸 倒 引 当 金	△32		△27		△30	
資産合計	15,842	100.0	15,166	100.0	14,445	100.0

＜負債及び純資産の部＞ 有利子負債が前期末と比較して960百万円増加し、有利子負債比率は15.9%となりました。**純資産は83百万円増加**しました。

(単位：百万円)						
科 目	前中間会計期間末 2006年8月20日現在		当中間会計期間末 2007年8月20日現在		前事業年度末 2007年2月20日現在	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
負 債 の 部		%		%		%
流動負債	7,819	49.4	7,987	52.7	7,329	50.7
支 払 手 形	2,492		2,274		2,599	
買 掛 金	1,576		1,312		1,126	
短 期 借 入 金	700		1,000		-	
1年内返済予定長期借入金	400		1,220		1,260	
未 払 費 用	892		963		840	
未払法人税等	557		270		540	
ポイント引当金	143		118		128	
賞 与 引 当 金	175		158		137	
そ の 他	881		669		696	
固定負債	1,506	9.5	251	1.6	271	1.9
長 期 借 入 金	1,413		193		193	
長 期 未 払 金	69		50		69	
そ の 他	23		8		8	
負債合計	9,325	58.9	8,239	54.3	7,600	52.6
純 資 産 の 部						
株主資本	6,514	41.1	6,927	45.7	6,842	47.4
資 本 金	1,229	7.8	1,229	8.1	1,229	8.5
資 本 剰 余 金	1,203	7.5	1,203	7.9	1,203	8.3
利 益 剰 余 金	4,088	25.8	4,502	29.7	4,417	30.6
自 己 株 式	△6	△0.0	△7	△0.0	△7	△0.0
評価・換算差額等	2	0.0	-	-	2	0.0
純資産合計	6,516	41.1	6,927	45.7	6,844	47.4
負債及び純資産合計	15,842	100.0	15,166	100.0	14,445	100.0

中間株主資本等変動計算書

当中間期における**株主資本の変動額は85百万円の増加**となり、期末残高は6,927百万円となりました。

内訳は前期末の配当金の支払いによる利益剰余金の145百万円の減少と中間純利益による230百万円の利益剰余金の増加であります。

評価・換算差額等は期中において2百万円減少しました。

純資産合計は83百万円増加しまして、**期末残高は6,927百万円**となりました。

中間キャッシュ・フロー計算書

営業活動によるキャッシュ・フローは税引前中間純利益が540百万円となったこと等により、88百万円の減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは有形固定資産の取得による支出が523百万円であったこと等により、616百万円の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは短期借入れによる収入が1,000百万円あったこと等により、814百万円の増加となりました。

(単位：百万円)							
	株 主 資 本					評価・換算 差額等	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
2007年2月20日残高	1,229	1,203	4,417	△7	6,842	2	6,844
中間会計期間中の変動額							
剰 余 金 の 配 当			△145		△145		△145
中 間 純 利 益			230		230		230
株 主 資 本 以 外 の 中間会計期間中の変動額						△2	△2
中間会計期間中の変動額合計			85		85	△2	83
2007年8月20日残高	1,229	1,203	4,502	△7	6,927	-	6,927

(単位：百万円)			
	前中間会計期間 2006年2月21日から 2006年8月20日まで	当中間会計期間 2007年2月21日から 2007年8月20日まで	前事業年度 2006年2月21日から 2007年2月20日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	470	△88	1,789
投資活動によるキャッシュ・フロー	△803	△616	△1,400
財務活動によるキャッシュ・フロー	529	814	△531
現金及び現金同等物の増減額	196	110	△141
現金及び現金同等物の期首残高	426	284	426
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	622	395	284

事業部門別概況

ギャルフィット・ファナー事業



当社の主力事業であります、ギャルフィット・ファナー事業(ニュービジネス事業部の売上高含む)の売上高は11,174百万円で、前年同期比93.5%となりました。

既設店売上高前年同期比は88.4%となりました。

荒利率におきましては、**前期比1.4%改善**いたしました。

期中の出店は10店舗であり、その内、新業態として当事業の扱いブランドでセクシー系の「**DOSCH**」を単独ショップとしてオープンいたしました。下期もモール型大型SCへの出店を計画しております。

シーベレット事業



シーベレット事業の売上高は、3,507百万円で、前年同期比109.3%となりました。

既設店売上高の前年同期比は87.6%となりました。

荒利率におきましては、**MD力の向上により、前年同期比1.7%改善**いたしました。

期中10店舗の出店により、**期末の店舗数は118店舗**となりました。店舗増に伴い商品及び営業体制の強化を図っており、ギャルフィット・ファナー事業に次ぐ高収益事業として成長を見込んでおります。

ライムストーン事業



ライムストーン事業の売上高は、1,340百万円で、前年同期比92.9%となりました。

既設店売上高の前年同期比は89.6%となりました。

荒利率におきましては、**前期比0.7%改善**いたしました。

新業態として、「**Li Meduo**」をモール型大型SCにオープンいたしました。1号店が大変好調であったため上期に4店舗展開しております。下期もモール型大型SCへの出店と既存のライムストーンからの業態転換を計画しております。

インセンス事業



インセンス事業の売上高は、733百万円で、前年同期比127.0%となりました。

既設店売上高の**前年同期比は102.5%**となりました。

荒利率におきましては、商品力の強化により、**前年同期比2.9%と大幅に改善**し、事業単体で黒字化となり、順調に成長しております。

メンズの品揃えの拡大による**ショップの大型化**を進め、50坪前後の大型店舗を上期に4店舗出店いたしました。今後も積極的に出店して収益基盤を確立していきます。

ニュービジネスの状況

ネットビジネス

ネットビジネスは**ブランド数を拡大**いたしました。

株式会社バンダイとのコラボレーションによる「**Sweet Razzor**」の販売を開始する計画です。イメージキャラクターにリア・ディゾンさんを起用したエレガンスのトータルブランドで、ギャルフィット・ファナー事業の全店舗でも独占販売し、ネットとリアル店舗の融合マーケティングをしてまいります。

現在展開中のブランド



トレクオーレ



レディースのアパレルと服飾雑貨をミックスしたスタイリングショップです。

当中間期末の店舗数は9店舗です。最適立地の検証を行いながら、新規出店も計画しております。

ライムストーン事業と統合し、商品力の強化を図りてまいります。

顧客の獲得とともに認知度を高め、ブランドとして早期確立を目指していきます。



木糸土



「木」「糸」「土」の天然素材が持つ色や形、素材感にこだわった素材が主役のショップです。

2006年11月に新宿ミロードにオープンした**1号店**が**好調に推移**しております。2年以内に5店舗出店していく計画です。

ヒット商品が着実に増加しており、ブランドビジネスとして確実に育ててまいります。



店舗の状況

スクラップ&ビルドの状況

着実なスクラップ&ビルドの実施 大型化・複合化・同一SC複数出店

着実にスクラップ&ビルドを実施し、**33店舗の出店**、ならびに14店舗の退店を行いました。この結果、中間期末店舗数は19店舗増加し、548店舗になり、店舗平均年齢は6.1歳（前中間期末6.4歳）となりました。

また、**出店の大型化**を図り、期中の新店平均坪数は55.0坪となりました。
増床改装も積極的に推し進め中間期末の平均坪数は54.3坪となりました。既設店強化のための店舗改装も着実に実施し、中間期中37店舗実施いたしました。

業態別出退店の状況

ライムストーン事業の店舗数純増へ 複合出店が3店舗、増床複合化が5店舗

全業態において**バランス良く出店**いたしました。**複合化**を推し進め期末の複合型店舗の数は53店舗となりました。

ライムストーン事業が前年度の出店数1店舗から、期中に「**Li Meduo**」の3店舗を含め合計6店舗出店いたしました。

ディベロッパー別店舗の状況

イオングループの構成比が上昇 モール型及び近隣型SCへの出店増加

イオングループの店舗構成比（前中間期末24.0%）、売上構成比（前中間期末25.3%）ともに上昇いたしました。

ユニーグループへの出店が7店舗、イトーヨーカ堂への出店が4店舗となりました。その他、ロック開発等スーパーセンターに4店舗を出店いたしました。

出	店	33 店舗
退	店	14 店舗
純	増	19 店舗
期末店舗数		548 店舗
店舗平均年齢		6.1 歳
改装店舗数		37 店舗

(単位:店舗)						
	出店	退店	業態変更		中間期末 店舗数	増床 改装
ギャルフィット・ファナー	10	7	+7	-5	307	19
ライムストーン	6	0	0	-1	39	2
シーベレット	10	1	0	0	118	9
インセンス	4	1	0	0	31	2
複合店	3	5	+5	-7	53	5
合計	33	14	(12)		548	37

(単位:店舗、%)						
	出店	退店	増減	中間期末 店舗数	店舗 構成比	売上 構成比
イオングループ	8	1	7	136	24.8	25.8
ユニーグループ	7	1	6	135	24.6	21.4
イトーヨーカ堂	4	3	1	55	10.0	10.9
他流通系DV	8	2	6	133	24.3	23.5
その他	6	7	-1	89	16.3	18.4
合計	33	14	19	548	100.0	100.0

※「その他」はファッションビル・駅ビル・地下街・スーパーセンター等

商品の状況

荒利率の状況

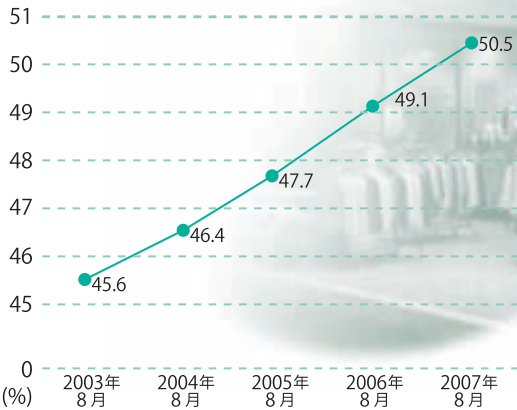
全社の荒利率は前中間期より1.4%改善 インセンス事業及びシーベレット事業が大幅改善

荒利率の改善が予定（当初計画1.1%改善）以上に進み50.5%となりました。

部門別におきましては、**インセンス事業が2.9%、シーベレット事業が1.7%**と大幅な改善となりました。

ギャルフィット・ファナー事業は1.4%の改善、ライムストーン事業は0.7%の改善になりました。

荒利率におきましては、プライベートブランド商品の充実及びMD技術のレベルアップ等により毎期着実な改善がなされております。



プライベートブランド(PB)及び海外直接貿易の状況

PBの比率が着実に増加 海外直接貿易は改善進まず

PBの比率が両事業ともに、当初目標の70%を上回りました。**ギャルフィット・ファナー事業は73.1%、ライムストーン事業は74.4%**となりました。

海外直接貿易においては、売上高構成比で当初目標15%を計画しておりましたが、**ギャルフィット・ファナー事業は15.0%、ライムストーン事業は9.6%**となり、目標を下回りました。

(単位: %)						
		05年8月期 売上構成比	06年2月期 売上構成比	06年8月期 売上構成比	07年2月期 売上構成比	07年8月期 売上構成比
ギャルフィット・ファナー	直 質	—	5.4	15.9	16.1	15.0
	直質以外のPB	66.1	63.0	56.2	56.6	58.1
	P B 合 計	66.1	68.4	72.1	72.7	73.1
	P B 外 合 計	33.9	31.4	27.9	27.3	26.9
ライムストーン	直 質	—	—	2.4	5.3	9.6
	直質以外のPB	42.2	51.7	68.7	67.2	64.8
	P B 合 計	42.2	51.7	71.1	72.5	74.4
	P B 外 合 計	57.8	48.3	28.9	27.5	25.6

株式の情報

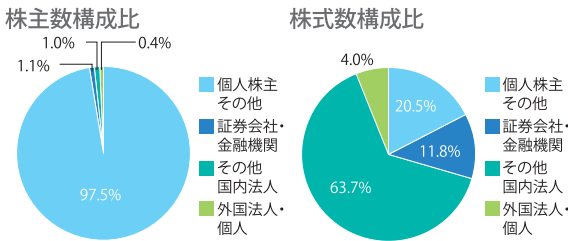
株式の状況 (2007年8月20日現在)

発行可能株式総数	27,360,000株
発行済株式の総数	7,260,000株
単元株式数	100株
株主数	2,172名

大株主 (2007年8月20日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株 比率 (%)
ユニー株式会社	4,599	63.36
日興シティ信託銀行株式会社 (投信口)	323	4.46
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	256	3.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	141	1.95
エイチエスビーシー バンク ビーエルシー アカUNT アトランティス ジャパン グロース ファンド	122	1.68
岩間 公一	105	1.46
パレモ従業員持株会	97	1.35
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー505025	47	0.66
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社 (信託口4)	44	0.62
家田 美智雄	44	0.61

株主構成 (2007年8月20日現在)



会社情報

会社概要 (2007年8月20日現在)

社名	株式会社 パレモ
設立	昭和59年11月22日
資本金	12億2,925万円
本社所在地	〒492-8680 愛知県稲沢市天池五反田町 1 番地
事業所	パレモ東京 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14番4号 パレモ大阪 〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1丁目5番10号
従業員数	2,595 名 (ナショナル社員167名、エリア社員他2,428名)
事業内容	婦人服・婦人洋品、バラエティ雑貨、 バッグ、服飾雑貨の小売専門店チェーン
ホームページ	http://www.palemo.co.jp/

役員 (2007年8月20日現在)

代表取締役社長	中 本 敏 幸
専務取締役	松 井 理 記
取締役	小 林 秀 夫
取締役	小 倉 正 教
取締役	永 井 隆 司
取締役	小 田 保 則
取締役	江里口 直
取締役	磯 見 洋
常勤監査役	武 末 逸 男
監査役	森 岡 孝
監査役	中 村 弘

注監査役のうち、森岡 孝、中村 弘の両氏は社外監査役であります。

株主メモ

事業年度	毎年2月21日から翌年2月20日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	定時株主総会 毎年2月20日 期末配当金 毎年2月20日 中間配当金 毎年8月20日
	そのほか必要があるときは、 あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人	住友信託銀行株式会社 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号
同事務取扱所	住友信託銀行株式会社証券代行部 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号
郵便物送付先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10

電話照会先	住友信託銀行株式会社証券代行部 住所変更等用紙のご請求 ☎0120-175-417 その他のご照会 ☎0120-176-417
-------	---

同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 全国各支店
公 告 掲 載	日本経済新聞に掲載

株主優待

株主の皆様方のご支援に対する感謝の印といたしまして、毎年2月20日現在
の株主名簿に記載された100株以上保有の株主の皆様に対し、下記のとおり
株主様ご優待品を進呈いたしております。

100株以上	1,000株未満	1,000円の図書カード
1,000株以上	3,000株未満	5,000円相当の産地直送果物
3,000株以上	5,000株未満	7,000円相当の産地直送果物
5,000株以上		10,000円相当の産地直送果物



本年は、メロン・さくらんぼを
進呈いたしました。